

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131(呼)・有線2190(呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076(呼)・有線2251(呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303(直通)
有線 8889(直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

充実した中学校生活を送るための 生徒の心がけと自覚

～ 立科小学校6学年道徳講話より ～

立科町教育相談員 岩上起美男

「子どもは無限の可能性を秘めた存在である。」

と申し上げますと、多くの方が、たとえば総理大臣やオリンピック金メダリスト、ノーベル賞受賞など、栄光に満ち溢れた「可能性」を思い浮かべるのではないのでしょうか。

確かに、子どもには前途洋々たる未来が待っており、そこには、まさに無限の輝かしい世界が広がっています。しかし、子どもも、このような「光」の面と同時に、「影」の部分併せ持っていますので、「無限の可能性」の中には、犯罪をおかしたり、いじめの加害者になったり、また、事故に遭ったりする「負の可能性」もひそんでいます。

そこで、立科小学校の卒業生（現在中学1年生）が、中学生期に発現されやすい「負の可能性」にもきちんと向き合い、充実した中学校生活を送ることを願って、卒業式を4日後にひかえた今春3月11日、「充実した中学校生活を送るための生徒の心がけと自覚」という講話を致しました。以下、その内容を要点的に記します。

*

立科小学校の卒業生誰もが、充実した中学校生活を送ってほしい。そのために、6年間の小学生としての自分を振り返りながら、真剣に中学生になるための心がけと自覚について考える場にしよう。

まことに痛ましい限りであるが、中学校の指導管理下において、毎年、全国で30人前後の中学生が死亡している。その大多数が、病気と登下校時の交通事故による。教室内で追いかけてこをしていて、窓ガラスに突っ込み、胸部に大量の血液がたまって死亡した中学生もいる。

健康に十分留意しよう。そして、自分の心がけ次第で未然に防げる事故があるので、他者から守ってもらう安全に甘んずることなく、自分の安全は自ら守る「安全感覚」を身に付けよう。「安全感覚」がなければ、教室も廊下も階段も、どこもかしこもすべて危険箇所である。非常に悲しく、切ないことであるが、

全国各地でいじめを苦に自ら命を絶った中学生がいる。生徒誰もが充実した中学校生活を送るために、何としてもいじめを根絶しなければならぬ。そのためには、生徒誰もが絶対に、文字通り絶対にいじめの加害者になってはならない。

中学生の成長上のテーマは、「内なる破壊と再構築」である。今までの生き方や考え方、感じ方、人との接し方などを一旦壊して、白紙の状態から改めて築き直す、という意味である。固定化した狭い友達関係も見直さなければならない。

中学生の発達課題は二つある。発達課題とは、各成長期に取り組むべき問題で

あり、その成長期に身に付けるべき「生きる力」である。

一つは、「精神的な自立」である。中学生には、「社会的な自立」や「経済的な自立」は求められていないが、自分のことは自分で考え、判断し、行動する姿勢が求められている。

毎朝、自分で起きることが「精神的な自立」の第一歩である。目覚まし時計などをセットして、自力で起床しよう。また、むろん病気やけがなど、事情があればやむを得ないが、日常的に家人に登下校の送迎をしてもらうことも考え直そう。徒歩なら徒歩、自転車なら自転車、バスならバス、と定められた方法で通学しよう。

もう一つの発達課題は、「中学校卒業後の望ましい進路を選択する力の育成」である。このような力は、勉強や運動、交友、読書、清掃、給食の準備・片付け、係委員会の役割、家の手伝いなど、平素からやるべきことをきちんとやることによって、自然に身に付くものである。そのためには、特に、テレビやゲーム、パソコン、携帯電話、ビデオなどの電子映像メディアへの接触時間を一日2時間以内にコントロールしよう。

脳の発達研究によると、人間の脳は、3歳のころには大人の90%程度になり、6～8歳でほぼ完成し、思春期に脳のシ